

令和2年11月

普及活動報告

サポートチームが新規就農者を巡回 ～京丹波町～

(京丹波町：10/9～11/5日)



各対象者のほ場を巡回
(上：小豆、下：黒大豆枝豆)

10月9日を皮切りに、「農業次世代人材投資事業」の「経営開始型」交付対象者のうち、就農状況報告期間中の新規就農者を対象として、サポートチームによる巡回を開始しました。

巡回では自宅や栽培ほ場に出向いて、農作物の作付状況や営農状況を確認する他、生産・販売状況や課題等を聞き取り、必要に応じて助言・指導等を行うこととしています。

新規就農者の経営状況や課題を関係機関で共有し、効率的で効果的なサポート体制を構築し、今後も支援を継続します。

場 所 京丹波町全域

京丹波町サポート巡回対象者：16名

京都府南丹農業改良普及センター

令和2年11月

普及活動報告

おいしいお米コンテストが開催される ～京都丹波米良食味推進協会～

(10/30・11/6日)

JA、市町等で構成する京都丹波米良食味推進協会主催の「おいしいお米コンテスト」が開催され、応募があったコシヒカリとキヌヒカリの2品種80点のうち、整粒率や食味計による予備審査で選ばれた16点について、実食審査を行いました。

長梅雨やその後の酷暑と栽培が難しい気象条件の下、おいしいお米が出品されていました。

普及センターは、今後も栽培管理に係るメール配信やコンテストなどを通じて、市場評価の高い米生産を支援していきます。

場 所 農林センター
出席者数 25名

全国食味ランキングで特A獲得を目指しています

京都府南丹農業改良普及センター

令和2年11月

普及活動報告

特産小豆の難防除雑草対策を検討

～京丹波町瑞穂地区～

(京丹波町：17日)



ホオズキ類の生育量を調査



ホオズキ類が繁茂する無処理区

小豆の栽培面積拡大を目指して機械化体系を導入する生産者のほ場では、難防除雑草であるホオズキ類が繁茂し、小豆の生育後半の対策に苦慮しています。そこで、現地50aのほ場において、播種時の土壌処理型除草剤に加えて、生育期間中に散布できる3種類の茎葉処理剤の効果を調査しました。

茎葉処理剤の散布は、ホオズキ類防除に一定の効果が見られ、生産者からも「来年以降も茎葉処理剤を散布したい」との声が聞かれました。

薬剤により小豆の薬害発生程度や除草効果が異なるため、今後、普及センターは、雑草の発生程度等を考慮した防除体系を提案していきます。

場 所 京丹波町瑞穂地区

出席者数 5名

京丹波町における小豆栽培面積：26ha

京都府南丹農業改良普及センター

令和2年11月

普及活動報告



エビイモの出荷調製について実演



種イモの採取・保存のポイントを解説

エビイモ採種を支援 ～JA京都えび芋 部会現地研修会（亀岡市）～

（亀岡市：19日）

良質なエビイモ生産支援のため、若手の部会員を対象に研修会が開催されました。

研修会では、現地ほ場でエビイモを実際に掘り起こし、市場関係者から出荷調製について、普及センターからは種イモの採取・保存の方法について実演を交えて説明しました。

エビイモの採種に係る指導者向け研修会（11月2日、農林センター）の内容を参考に説明したところ、「自家採種でも優良な種イモの選抜は可能で、収量向上が図れる」ことに生産者は強い関心を示し、採種技術について理解が深まりました。普及センターは、引き続き良質なエビイモ生産を支援していきます。

場 所 亀岡市馬路町

出席者数 11名

JA京都えび芋部会員（亀岡市）：20名

京都府南丹農業改良普及センター

令和2年11月

普及活動報告

高校生が特産小豆の収穫を体験

～京丹波町瑞穂地区～

(京丹波町：24日)



鎌の使い方等を説明



1人250株以上を収穫

地元高校生5名が「先進農家から学ぶ京都の農業」の取組みの一環で、生産者指導の下、京丹波町の特産である瑞穂大納言の収穫体験を行い、農業の魅力に理解を深めました。

生産者から瑞穂大納言の名前の由来や小豆の収穫適期について説明され、その後、鎌で株ごと刈り取る方法で収穫体験が行われました。普及センターは説明資料の準備や当日の作業を支援しました。

生徒からは「大納言という小豆の名前の由来を知らなかった」「1時間程度の作業で腰が痛くなり、大変な作業だと実感した」などの声が聞かれました。

場 所 京丹波町瑞穂地区
出席者数 14名

須知高校内で栽培した小豆の収穫は、莢を手でもぎ取る方法で行われている

京都府南丹農業改良普及センター

令和2年11月

普及活動報告

新規就農者の夏秋なす栽培反省会を開催 ～亀岡地域農業再生協議会担い手部会～

(亀岡市：26

日)

亀岡地域農業再生協議会の呼び掛けで、今年なす栽培に取り組んだ新規就農者が参集し、栽培の振り返りや収穫実績を基に次年度の栽培計画について確認しました。新規就農者が本年の販売実績等を基に反省事項を確認し、普及センターは次年作に向けた資材準備の重要性について説明しました。

なす栽培に取り組んだ新規就農者の平均販売額と自分の実績を比較して、「もっと頑張ろう」「6箇月間の各種作業を徹底して実行する」との決意が示されました。普及センターは、今年の実績を踏まえ、次年に活かせるよう引き続き関係機関と連携し支援していきます。

場 所 JA京都亀岡中部支店

出席者数 13名



熱が入った検討



省力化資材の紹介

亀岡市内新規就農者数：38名

京都府南丹農業改良普及センター

令和2年11月

普及活動報告

ジャンボタニシについて講演 ～亀岡市 農地利用最適化推進委員研修会～

(亀岡市：26日)



亀岡市ではジャンボタニシによる水稻被害が拡大しているため、農業委員会の要請を受け、農地利用最適化推進委員を対象に講演しました。

今回は、ジャンボタニシによる被害を回避するための田植え方法や春・夏・秋の季節ごとの対処方法に加えて、生態や南米産の動物がなぜ定着に至ったかの経過などを網羅した講習を行いました。

参加者からは「説明を聞いてよく分かった」「石灰窒素施用を実施したい」との声が聞かれました。普及センターは、引き続きジャンボタニシの被害回避に向けて支援していきます。

場 所 亀岡市役所

出席者数 27名



亀岡市のジャンボタニシ発生水田面積：288ha（総水田面積1,520haの18.9%）

京都府南丹農業改良普及センター

令和2年11月

普及活動報告

生業（なりわい）としての有機農業を考える ～情報交換会を開催～

(27日)



事例報告に聞き入る参加者

当センターでは、有機農業の実践者や志向者の緩やかなネットワークとして「有機農業サロン」を開催し、これらの方々が自主的な情報交換や交流ができるよう支援しています。

今回は、有機農業で経営を続けて行くためにどのように売っていくのか、販売先とどのようなつながりを持つかを中心に、管内で先進的な経営をされている3名の方に事例報告していただいた後、販路やコスト軽減などについて意見交換を行いました。

参加者からは「労働単価や原価計算を考えていきたい」「利益が取れる品目を検討したい」などの感想がありました。普及センターは今後も、有機農業者相互の交流を支援していきます。

場 所 園部総合庁舎
出席者数 30名

南丹管内有機農業者：約90名

京都府南丹農業改良普及センター